

認知症 心臓の画像検査に注目

2割占める「レビー小体型」

認知症の2割を占めるとも言われる「レビー小体型認知症」。早く診断できれば、予測される体の症状にも備えることが可能になる。体のこわばりなど特徴的な症状が出ていない段階でも、心臓の画像検査が有力な判断材料になりうる、評価が高まっている。

早期診断 幻視が改善

東京都世田谷区の男性(76)は2012年11月、妻(74)と区内の関東中央病院の神経内科を受診した。妻から「何度も同じことを聞

12月に再び病院を受診。主治医となった織茂智之・神経内科部長は、「黄色い大蛇」の話聞いてレビー小体型認知症を疑った。存在していないものが見える「幻視」を繰り返すのは、

国際的に高まる評価